

# 神崎御荘と平家

蓮池開華計画委員会

田中 傳也

栄華を極めた平家の礎の一つが、佐賀にあった荘園「神崎御荘」しかも蓮池で築かれたと言う、歴史の見方が有ります。その根拠について記してみました。

大化の改新以来続いていた律令制も、平安時代中期になると崩れ、各地に寺社を中心にした荘園が作られ、地方には武家が台頭してきました。その中から清和天皇を祖とする源氏と、桓武天皇を祖とする平氏との二大勢力が形成されました。源氏は、坂東を中心に東国へ勢力を広げ、平氏は瀬戸内や九州の西国に勢力を張りました。とくに、平忠盛は、鳥羽上皇の信任篤く、院御領の神崎の荘を預所として荘園の管理を任され権力を振っていたのです。

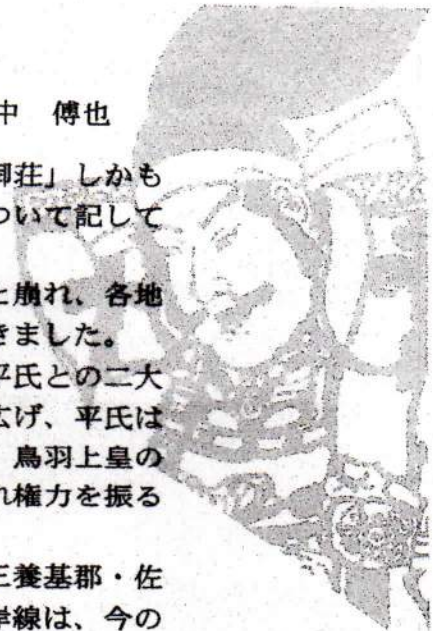
当時の神崎荘は、安楽寺領石動荘・三津荘を除く神埼郡・三養基郡・佐賀市にまたがる荘域三千町を有する大荘園でありました、海岸線は、今の佐賀江付近で、城原川は、直接有明海に注いでいました。嘉瀬川は佐嘉川と呼ばれ石井樋付近より東進し巨瀬を通り蓮池で有明海に達していました。

長承二年（1133）、唐人船が神崎荘に到着した時、忠盛は、太宰府の役人は宋船の来船に関与してはならない、との偽の院宣をだし宋との貿易の利権独占を図っています。そしてこの事が、後の平清盛の日宋貿易の始まりと解釈して間違いないと思います。明時代の図書編に「肥前州法司奴一計」と記され、これは貿易の基地が、蓮池町周辺だったと推察できます。

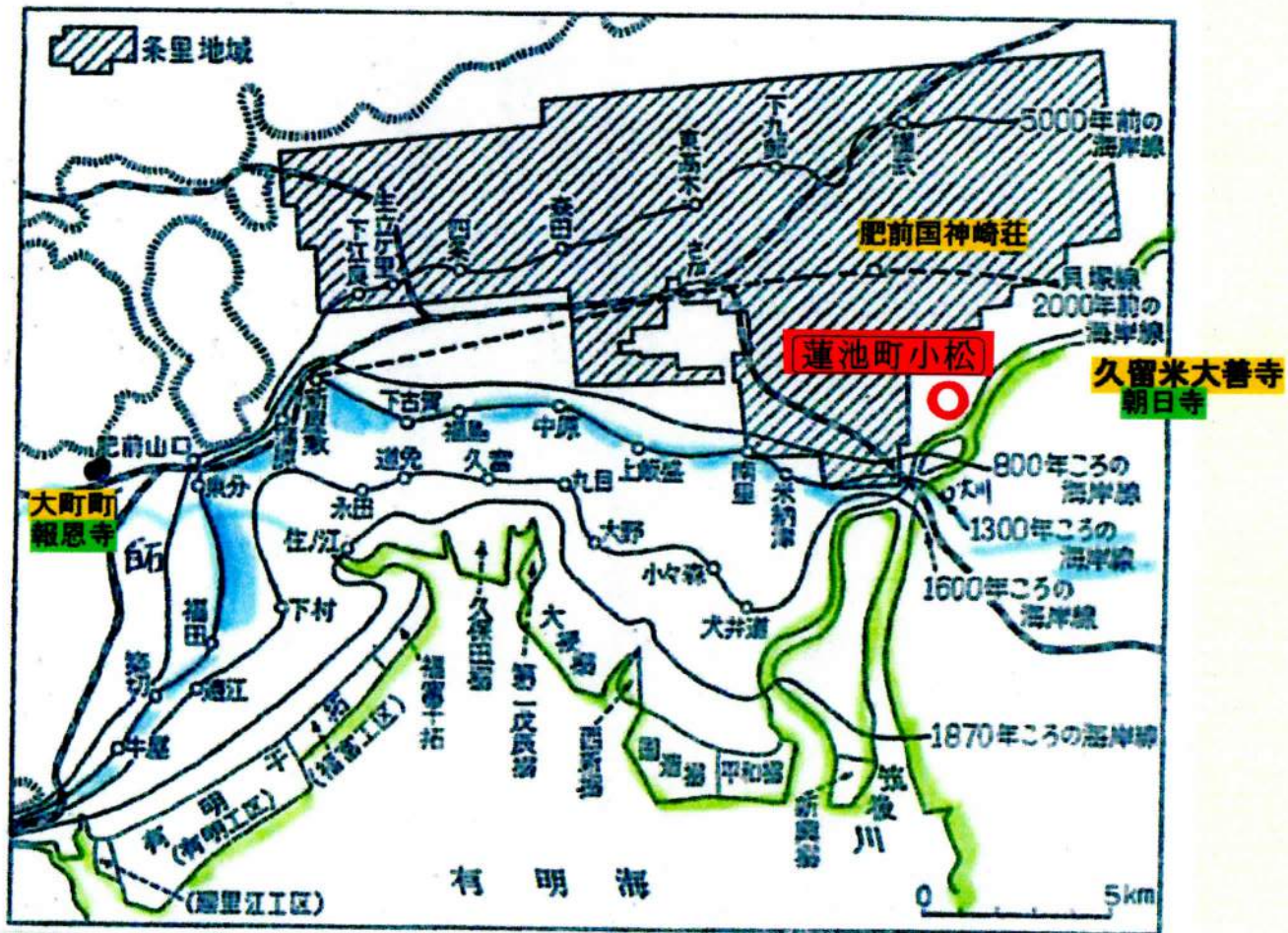
保元・平治の乱が起き平清盛が、源氏を破り平家の政権を確立します。この時、日宋貿易で得た富を軍資金として、戦力増強や宮廷工作に利用したとみることができます。つまり、平家興隆の基は神崎荘蓮池での貿易だったと言うことになります。

神崎荘は、平忠盛・清盛・重盛と継承されていますが、蓮池町の小松は、重盛の別称「小松の御殿」の小松のことです。小松神社は、北条氏の世に建立されたと伝えられ同神社の浮立には笛がなく「笛無し浮立」と呼ばれています。

又、文永十年（1274）、蓮池町蒲田郷に、出雲大社宮司北島泰考の弟康考が、亀山天皇の命をうけて鎮西出雲大社を分社建立しており、当時からこの蓮池は開かれた地域だったと推察されます。







### 佐賀平野の開発進展

参照:角川日本地名大辞典

(米倉二郎・千手正美原因)

有明海は、古くから干拓事業が進められました。鎌倉時代はかなり内陸のところまで海でした。日宋貿易は平清盛の父である忠盛が、長承二年(1133年)、鳥羽院の所領である肥前国神崎荘の預所だったころ、院の権威を背景として宋との貿易を独占しようしました。宋との貿易は知行国、荘園からの収入とともに平家の栄華を支える重要な経済基盤でした。